

# ヘンダーソンビル 留学日記

桂高校では、昨年の8月から12月までの5カ月間、姉妹都市である米国テネシー州ヘンダーソンビル市にある国際姉妹校、ビーチ高校とヘンダーソンビル高校の2校に長期留学生2名を派遣しました。そのお二人の感想を紹介します。

## 長期留学を終えて

桂高校3年 藤江 恭子

八月二日、私は家族と友達に見送られながら不安と期待を抱き、一人日本を離れました。十三時間飛行機に乗り、着いたアトランタで入国審査を受けました。そこで、入国審査官の人に書類が足りないなどと言われ、引き留められ、乗る予定だった飛行機がたつてしまふというハプニングが起こり、初めからあわただしいスタートとなつてしまいました。

何とか次の飛行機のチケットを手に入れ、やっとの思いで夜中、テネシーに着くことが出来ました。飛行機を降りると、私のホストファミリーの人たちが桂からのもう一人の留学生を連れ、出迎えてくれていました。その時、誰も知らない場所で、私を暖かく出迎えてくれた人たちに対して、口では表せない感動を覚えました。

その夜、初めて私の入る家の大きさをみて驚きました。それは、日本に住んでいる私たちからは想像の出来ないほどの家でした。そして荷物を下ろし四時間後にはまた、飛行機に乗り、オハイオ州に住んでいるホストファミリーのおじいちゃんとおばあちゃんと一緒にアメリカで一番有名な遊園地に連れていってもらいました。寝る間も無くあわただしい日々が続きました。新しい土地での生活は私にとってとても興味深く、新鮮なものでした。

アメリカでの夏休みの二週間が

たち、学校が始まりました。学校には、ホストファミリーの一つ年上の男の子、ジェレミーの車で、二つ年下の女の子、クリスタルと三人で通いました。アメリカの学校は、フレッシュマン、ソフモア、ジュニア、シニアの四年に分けられていて、日本で言う中学三年生から高校三年生までと一緒に過ごしました。生徒たちは、学校で受ける教科を自ら選択し、責任とやる気を発揮し、授業に取り組んでいました。私は、ソーイングクラス、コーラスクラス、フラワーカーチャークラス、キーボードイングクラスの四つを選択しました。ソーイングクラスでは、ぬいぐるみ、ドレスなどを作り、コーラスクラスでは、クリスマスコンサートを最終目的とし、クラス一丸となり、クリスマスソングを楽しく、一生懸命練習しました。

その成果でクリスマスコンサートは、とても素晴らしいものとなりました。フラワーカーチャークラスでは、切り花や、コサージュを作ったり、花の名前や育て方などを勉強しました。キーボードのクラスでは、完全なるキーボードの早打ちでした。最初は、アルファベットの位置など何も分からず、クラスに遅れをとり、友達によく笑われてしまいました。練習を重ねていくうちに友達にも劣らぬスピードでキーボードを打てるようになりました。先生、生徒からは、驚きの声があがっていました。

学校に行き始めるころは、友達と呼べる人たちは、ほとんど持っていないままでしたが、日を重ねる

ごとにより、友達が、本当にたくさんできました。学校の昼食は、カフェテリアと呼ばれる学食のようなどころで毎日食べました。カフェテリアには、ポテトフライ、ピザ、ハンバーガー、ホットドッグなどアメリカらしい食べ物ばかりがおいでありました。日本人の私は、毎日サラダを食べていました。



ホストファミリーの人たちとは、とても仲良く、楽しく生活することができました。家には、モ

ードルホームという車、日本でのキャンピングカーがありました。その車の中は、本物の家のようでした。テレビ、ビデオ、キッチン、トイレ、シャワー、ベッドルームなど、本当に素晴らしいものでした。休みの日には、その車で、オハイオ州、セントルイス、

ゴルフショーツの海へ何時間もかかりながら出かけました。私の留学も終わりに近づいてきたころ、アメリカの最大イベントと言ってもいい、クリスマスがやってきました。アメリカでは、クリスマスの一カ月前から家中にクリスマスグッズを並べたり、ツリーを作ったり、ライトを張りめぐらせ、とてもきれいなものでした。クリスマスは、オハイオ州に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に過ごしました。クリスマスプレゼントは、友達、家族などから信じられないほどの数をもたらしました。

クリスマスが終わると、残り二日間で帰国しなければならぬという、悲しい現実と向き合わなければなりません。私の、思い出の詰まったスーツケースは、とても重い物でした。帰国の飛行機は、朝早く、家を五時ごろ出発する予定でした。帰国の前夜、私は眠れませんでした。私は最後の思い出として、手紙を書きました。その手紙を、誰にも気づかれないうちにテーブルの上に置き、家を出ました。空港での別れは、悲しみと感謝の気持ちでいっぱいでした。

ホームシックにかかることなく、楽しく過ごせたのは、私を本当の家族のように優しく接してくれたホストファミリーや、学校などで出会った全ての人々のおかげだと思えます。また、日本でかげながら、応援してくれた家族、友達、先生方に、心から感謝します。本当にありがとうございました。